

神戸から世界の海へ



企画展

神戸における海技者教育 100年の歩み

神戸大学大学院海事科学研究科・海事科学部100年の変遷

- 大正 6年 (1917) ▶ 私立川崎商船学校設立
- 大正 9年 (1920) ▶ 神戸高等商船学校創立
- 昭和 20年 (1945) ▶ 海技専門学院創設
- 昭和 27年 (1952) ▶ 神戸商船大学設置
- 平成 15年 (2003) ▶ 神戸大学と統合し海事科学部・大学院海事科学研究科設置 (平成 19年)

2017 11.17 Fr. ~ 2018 1.31 We. 神戸大学百年記念館

サテライト巡回展・展示目録

はじめに

幕末から明治に入った日本では近代化が急速に進められ、造船や海運部門も大躍進しますが、急増する邦船船腹量に対応する海技者（商船士官）が不足してきます。神戸における海技者教育はこの時期に幕を開けました。

神戸大学の深江キャンパスは大正6（1917）年の私立川崎商船学校に端を発します。その後、国に移管されて神戸高等商船学校となり、爾来、資源に乏しい日本の生命線を維持するために数多くの商船士官を輩出し、国の発展に貢献してきました。

今回は平成29（2017）年に神戸の海技者教育が100年を迎えるのを記念した企画展です。特に戦後に焦点をあて、昭和27（1952）年に新制大学として始動した神戸商船大学から、平成15（2003）年に神戸大学と統合して神戸大学海事科学部、さらに大学院海事科学研究科が設置され、現在にいたる海技者教育のあゆみを紹介いたします。現在、国際貿易港として日本を代表する港町「神戸」は平成29年に開港150年を迎えます。近代から現代にかけての両者のあゆみもあわせてご覧ください。

神戸大学海事博物館 館長 矢野吉治

【解説】

創立期から海事科学部への道程：神戸商船大学の開学まで

神戸は明治に開港され、西洋型船舶が出入りする国際貿易港でした。その神戸に川崎商船学校が大正6（1917）年に開かれます。東京の三菱商船学校（後の東京高等商船学校）に続く商船学校の二校目で、創立した川崎家は三代に渡り、現在の神戸大学海事科学部にいたる足掛かりを築きました。

現在にいたるまで海技者教育の殿堂として、西の神戸を「深江」、東の東京を「越中島」（の商船学校・大学）と、親しみを込めて呼ばれています。

大正7年に川崎商船学校第1期生50人、大正9年に神戸高等商船学校生59人が入学し、教育が本格化します。しかし戦時中、昭和20（1945）年に高等商船学校（清水）への統合（高等商船学校神戸分校）、神戸分校の廃止（1946年。海技学院へ継承）と続き、神戸高等商船学校は幕を閉じました。

昭和20年までの25年間に2,992人の卒業生を輩出し、日本経済や海運の発展に大きく貢献しました。この海技者教育が戦後復活され、神戸商船大学として再始動します。



神戸商船大学から神戸大学まで

戦後、海技専門学院を新制大学に改組する活動を経て、最終的に深江の学校用地を利用した「神戸商船大学」の新設が閣議決定されます。そして昭和27（1952）年に神戸商船大学が開学しました。

深江の地では戦後も引き続き、海技知識や技術、能力の向上のみならず、シーマンシップの涵養を大きな柱に徹底した海技者教育を展開しています。座学教育のほか、厳しい実習訓練を通じて商



船士官としての資質や心構え、強靱な精神力、連帯感などの育成とともに、無冠の外交官としての役割を担うべく国際性の向上にも力を注いでいます。

神戸商船大学は当初、学生全員が寮で起居する全寮制を採用しました。昭和 29～32（1954-57）年に北寮、中寮、南寮が、さらに昭和 38 年に新寮が竣工して、現在の白鷗寮の原型となっています。なお昭和 51（1976）年に修業年限が 4 年半から 4 年に改正され、前後して全寮制は廃止されました。

教育課程では昭和 47（1972）年の原子動力学科の開設以降、学部改組を数度に渡って行い、現在のグローバル輸送科学科、海洋安全システム科学科、マリンエンジニアリング学科に至っています。昭和 57（1982）年 4 月には、国立大学として最後に女子の入学が認められました。



進徳丸と深江丸

海技者教育で欠かせないのは船舶実習です。戦前から利用された「進徳丸」、そして戦後に建造された「深江丸」は、その代表格です。

進徳丸は戦前の帆船時代、34 回に及ぶ遠洋への訓練航海を行いました。深江丸は瀬戸内海など内海における船舶実習を軸としつつ、授業（「海への誘い」）や鬼界カルデラの海洋底探査といった調査研究に積極的に活用されています。また文部科学省による平成 24（2012）年の「教育関係共同利用拠点」認定に基づいた他大学の利用も盛んです。現在まで 11 の機関・部局の使用があり、今後も促進をはかっていきます。

そのほか、戦前の陸上帆船・大正丸や昭和丸に始まり、近年導入したクルーザーヨット（クライナー・ベルク）など、時代に適応した船舶器材を整え、海技者教育の充実・進展に努めています。



海と港ではたらく

私たちの生活に欠かせない食料品や洋服など、多くが外国で作られています。それらは船で日本に運ばれ、港を通じて私たちに届けられます。

戦後、神戸商船大学が第一に目指したのは、やはり「商船」で活躍する国際教養豊かな海技者の養成でした。商船とは漁船や作業船を除いた、貨物船や客船のことで、国内航路と外国航路に分かれます。商船に乗り組む船員数は、現在、世界中で約 120 万人。日本人は 1970 年代に 4 万人以上いたのが、現在は約 5 千人となっていますが、世界各国に行けるなど、魅力のある職業です。

神戸大学海事科学部では、海と港で働く海技者の養成に努めています。

写真(掲載順):1963年の白鷗寮/海事科学部2号館外壁のシンボルマーク/第2阪神国道開通直前の深江キャンパス/女子学生入学のパンフレット/統合記念式典/阪神・淡路大震災慰霊献花式/陸揚げ保存中の進徳丸/現在の深江丸III世/カッターの実習風景/日本丸で実習にのぞむ学生/神戸港に入港したイタリア客船/門柱モニュメント

展示資料一覧

	資料名	年代	種別	寸法(cm)等	備考
	神戸商船大学遠景	1959年	写真	45×56	空撮
	神戸商船大学遠景	1980年代後半	写真	56×79	空撮
	神戸商船大学 海を守る国際海洋人育成	2002年	新聞	60×42	複製
	神戸大学海事科学部 (大学案内)	2003年	パンフレット	30×21	
	神戸大学海事科学部 (大学案内)	2017年	パンフレット	30×21	
	「1・17」住民100人救出：市場崩壊すぐ走った／絆の大切さ思い知った	2016年	新聞	33×42	複製
	大学構内に陸揚げ作業中の進徳丸	1977年	写真	44×57	
	神戸商船大学海事資料館図録	1991年	図書	30×21	
	海事資料館		パンフレット	30×21	
	進徳丸メモリアル	1998年	パンフレット	30×21	
	『海洋』2017.5号	2017年	雑誌	30×21	
	国家資格 海のパイロット 水先人	現在	パンフレット	30×21	
	船員への道と奨学制度	現在	パンフレット	21×10	
	海と港が仕事の舞台	2017年	パンフレット	30×21	
	神戸における海技者教育100年の歩み	2017年	図書	30×21	本企画展図録
	海事博物館研究年報 No.44	2017年	雑誌	30×21	
	神戸大学海事科学部 深江キャンパス鳥瞰絵図	2012年	絵画	43×60／青山大介・作	複製
	巨船 扶桑丸 日満連絡航路＝就航	1934年頃	ポスター	53×76／大阪商船	仲島忠次郎 コレクション
	黒龍丸 日満連絡新造船	1937年	ポスター	76×102／大阪商船	仲島忠次郎 コレクション
	ぶらじの丸進水記念	1954年	絵葉書	9×16／三菱重工神戸造船所	大阪商船。外袋入り3枚組
	南米・世界一周航路 あるぜんちな丸進水記念	1938年	絵葉書	15×10／三菱重工長崎造船所	大阪商船。3枚組
	PARADISE ACE	2004年	絵葉書	10×17／三菱重工神戸造船所	商船三井。2枚組
	ORIENT PHOENIX	2007年	絵葉書	10×16／川崎造船神戸工場	

注) 資料番号は展示順とは一致しません。解説パネルにご紹介した資料の画像は、目録一覧には掲載されていません。企画展の内容は、神戸大学海事博物館で現在ご覧いただけます。

主要参考資料

神戸商船大学五十周年記念誌編集・刊行委員会編 (1971) 『神戸商船大学五十周年記念誌』神戸商船大学五十周年記念会
 神戸商船大学七十五周年記念誌編集刊行委員会編 (1996) 『神戸商船大学七十五周年記念誌』神戸商船大学七十五周年記念会
 本庄村史編纂委員会編 (2004) 『本庄村史：神戸市東灘区深江・青木・西青木のあゆみ / 地理編・民俗編』本庄村史編纂委員会
 本庄村史編纂委員会編 (2004) 『本庄村史：神戸市東灘区深江・青木・西青木のあゆみ / 歴史編』本庄村史編纂委員会
 全日本船舶職員協会五十年史編纂委員会編 (1981) 『五十年史：明治・大正・昭和 船舶職員と商船教育変遷の記録』全日本船舶職員協会
 山口誓子 (1939) 「あるぜんちな丸」『海』昭和14年8月号、大阪商船株式会社
 山口誓子 (1938) 「夜の別府航路」『海』昭和13年8月号、大阪商船株式会社
 記事 (1954.4.16) 「俳人誓子氏進水式に來所」『船舶時報』
 石井謙治編 (1988) 『復元日本大観4 船』世界文化社

協力 (順不同、敬称略)：一般社団法人海洋会、神戸大学附属図書館、大学文書史料室、山口誓子記念館、誓子・波津女俳句俳諧文庫、造船資料保存グループ、人文学研究科地理学教室、井東敏子、別所 修、野邑理栄子、米田恵子、船阪富美子、田中史恵、凸版印刷株式会社

補注：本企画展は、神戸大学海事博物館ボランティアである特別専門員が中心となって作製いたしました。サテライト巡回展は文学部文化財学講座の立案により、企画展の内容をパネルに集約し直したものです。巡回展準備は専門員を筆頭に、博物館学を学ぶ学生ボランティアが携わりました(菊地 真、谷林潤美、井口琢人)。本目録は、神戸大学海事博物館巡回展 2017「神戸における海技者教育100年の歩み」(会期 2017.11.17～2018.1.31 百年記念館)に関する出品資料等を記載しました。(編集:菊地、井口)

発行:2017年11月16日 神戸大学海事博物館